

平成18年 1月10日

ヘルパーステーションだいとう ケアレポート No 5

ヘルパーステーションだいとうのケアレポートNo 5をお届けします。
今回は在宅での認知症のケアについて考えてみたいと思います。

認知症の問題行動は、本人の認知症そのものつまり認知症の中核症状が引き起こすよりも、本人を取り巻く人たちが大いに影響を与える周辺症状によって引き起こされる事が多く、問題行動は本人が問題ではなく周囲の人たちが問題とよく言われます。このことは在宅で認知症を抱えながら生活する利用者の方々に大きく影響します。

たとえば、ADL（日常生活動作）が高い、つまり麻痺などが無く、立ったり歩いたりする動作には問題がなくても、認知症によってガスコンロの火の始末が上手くできない一人暮らしの人はそのままでは生活しにくくなります。一方で、たとえ自分の世話をしてくれる娘や家族の顔が判らなくなっても家族の理解があり、本人が不安のない状況であれば、娘にむかって「どなたか知りませんがいつもお世話になります」と言いながら住み慣れた家で生活し続けられます。ただし、実際には話は単純ではなく、病状が進行すれば様々課題が出てきて家に住み続けられなくなることが多く、支援が必要となってきます。

介護保険上では認知症対応型のグループホーム以外では在宅での認知症のケアは確立されていません。自宅での日常生活を維持するサービスの中心である訪問介護は、課題ごとのポイントでの介入が業務の中心で、認知症が軽度であっても常時見守りが必要となってくると家族の負担が大きくなり、デイサービスやショートステイなどで過ごす時間帯以外での自宅での日常生活が困難になってきます。

そのような状況の中で、在宅での生活を続けられている認知症の利用者の方が、出来るだけ自宅で安心して穏やかに過ごして頂きたいと、私どもは訪問していない時間帯を憂慮しながら、訪問介護の立場で四苦八苦しています。

厚生労働省は「訪問介護におけるサービス行為ごとの区分等について」（いわゆる身体介護、生活援助の内容）で訪問介護の業務の基準を示しています。

認知症が進行して自分で調理が出来なくなったのでヘルパーが支援するケースを考えてみます。

- a 利用者本人の代行的なサービスとして、調理をヘルパーが行えば生活援助に位置づけられます。
- b 「利用者本人が調理が出来ない」という課題をもう少し詳しく分析して、例えば
 - * 調理の手順が思い出せない
 - * ジャガイモやにんじんの皮はむけるが刻むことができない
 - * 味付けがでたらめになる

などの課題をヘルパーが、本人の自尊心を傷つけないように気配りをしながら、利用者と一緒に手助けをしながら行う調理（安全確認の声かけ、疲労の確認を含む）は「自立生活支援のための見守りの援助（自立支援、ADL向上の観点から安全を確保しつつ常時介助できる状態で行う見守り支援等）」として身体介護に位置づけられます。

同様のケースとしては、

- * 洗濯物をいっしょに干したりたたんだりすることにより自立支援を促す
- * 利用者といっしょに冷蔵庫のなかの整理等を行うことにより、生活歴の喚起を促す

などがあります。

また、訪問介護の業務として明確には位置づけられてはいませんが、

- * 本人が一人で買い物に行くと、「おつりの計算が出来ない」「不要なものを購入する」「同じものを購入する」「買ったものを置き忘れる」などの問題が出ることを訪問介護による買い物支援の見守りの援助によって解決する
 - * ずっと家の中にいると不安が高じてきて「外出・散歩に出かけ、それによって落ち着いてくる」「外出したものの帰り道が判らなくなる」などの問題を支援する
 - * 認知症による閉じこもりのためデイサービスなどが利用出来ない方に音楽療法や回想療法によって生活歴の喚起を促し、自立心や社会性の回復・醸成を図る
- なども在宅での認知症ケアとして検討されることを望みます。

ヘルパーステーションだいたいの利用者の方のデータを示します。

平成17年12月の利用者229名（女性161名 男性58名）のうち

認知症（確定診断名はついていないが日常生活に支障が認められる方を含む）の方は36名です（女性31名 男性5名）。

個別援助計画に記された認知症の方への視点を持つケアの具体例としては

- 生活意欲の減退を防ぎ、生活のリズムを習慣づける
- 郵便物等によるお知らせ等を忘れるため、郵便物の確認を一緒に行い届け出等が遅滞なく行われるよう支援する
- 居室内の掃除を声かけをしながら一緒に行う
- 物忘れが強いため有るものは出来るだけ元に戻すよう居室の片づけを一緒に行う
- 冷蔵庫の中身を確認して、料理のメニューを考えてもらい、食材の購入品を一緒に決める
- 食材の管理が出来ないため、賞味期限切れの食品を一緒に処分する
- 不安やストレスが高じて興奮されてくると、車いすによる外出支援を行い、気分転換や草花にふれることで和んで心の平静さを得る
- 独居により出火への不安が強く、火の元を一緒に何度も確認し、不要な電化製品のコンセントもすべて抜く
- 独居により戸締まりへの不安が強く、家中の鍵を一緒に何度も確認する
- 服薬の確認や支援

その他にも一人暮らしや昼間独居の不安を常に持つておられるため、ヘルパー訪問時には一緒に歌ったり、会話を十分に行って不安を解消するなどは日常的なケアといえるでしょう。

私たちは利用者の方の自立した日常生活の継続にその方の尊厳を見いだそうと考えて支援させて頂いています。ご利用者やご家族とケアマネジャーさん共々ケアのあり方を考えていきたいと存じます。様々なご意見をお聞かせ願えれば幸いです。